

① 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上

課題と目標

【具体的な取組の方向】

- 科目選択の指導について教員間の共通理解を図る。 B【教務】
- 授業研究部会と連携しICT活用指導力の向上を図る。 B【教務】
- 国公立個別試験の問題研究を継続して行う。新たに九州大の研究を加える。 B【進路】
- 研修会や研究会などに参加することで新課程入試に関する資料を収集し、伝達講習する。 B【進路】
- 小中高の授業連携の幅を広げ、推進する。 B【総務】
- 図書館の来館者状況を把握すると共に図書館の利用状況を年次団で共有して協力を仰ぎ、来館者数を増やす取り組みをする。 B【文化】
- 「話す」「聞く」などの生徒の表現活動を授業に取り入れて伝えあう力を高める。 B【国語科】
- 各種資(史)料、統計、地図などにしっかりと向き合う場面を設定する。読みとったことを表現させる手段を工夫する。 B【地歴科】
- 実力考査の作問、結果分析を全員で行うことにより作問能力や分析能力の向上を図る。 A【数学科】
- 生徒同士で課題について考え議論することでプレゼンテーション・コミュニケーション能力の育成を図る。 A【理科】
- 個人・グループごとの活動計画を立て振り返りを行うことで、思考力や表現力の向上を目指す。 A【保体科】
- 将来的に創造的な発想ができるようにするために基礎を学び、古今の名作に触れ、それらを生かした発表ができる。 B【芸術科】
- 授業中の生徒による言語活動を充実させ、言語運用能力の伸長を図る。 B【英語科】

【プロセス】

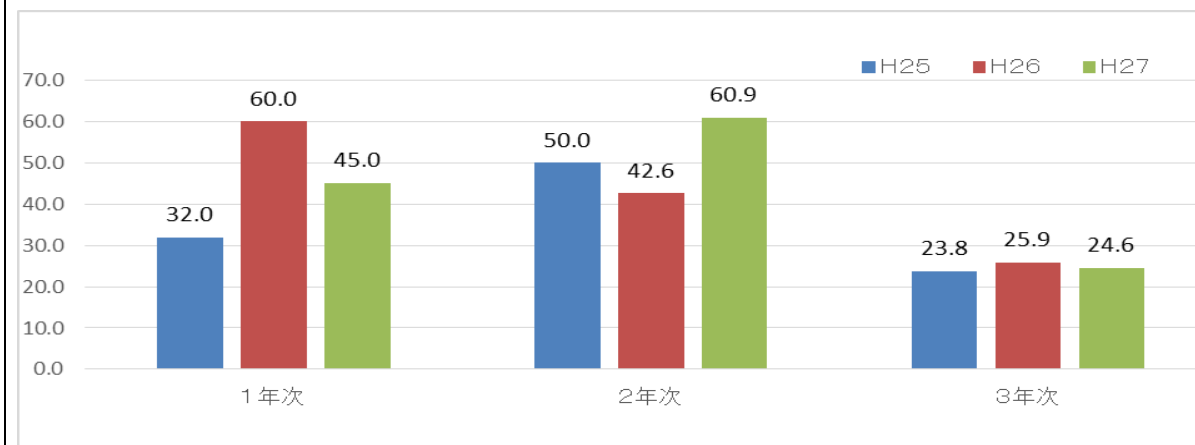
- 【教務課】**
- 特別な選択の生徒への細心の注意や科目の内容についての理解が教員の側で万全とはいえなかった。徹底を図る必要がある。
 - ICT活用実態調査を2月にまとめるが、かなりの活用率であると思われる。タブレット端末等の要望もあり研究を要する。
- 【進路課】**
- 授業見学等 新見 6/11 芳泉（2名）11/4 操山（2名）11/14 青陵 11/15 総合教育センター研修講座 5/18 7/28 8/27 10/14
 - 教員研修プログラム 駿台（3名）河合塾（2名）内訳（国語1名、日本史1名、数学1名、化学1名、英語1名）
 - 大学入試研究が十分にできている教科、できていない教科がある。冊子は継続的に作成できているが、活用の仕方を工夫したい。
 - 7月検討会では、15年度入試の総括を伝達講習した。
 - 12月検討会では、低学年の進路指導について伝達講習した。
- 【総務企画課】**
- 出前授業 成羽中学校（家庭）7/13（社会・数学）12/15 高梁東中学校（英語）7/13 高梁中学校（国・数・英・理・社）10/14 川上中学校（英語）12/9 有漢中学校（英語）12/15
 - 授業見学 高梁中学校研究授業（11/27、1/22）に計4名の教員が参加し、中学校の先生方と意見交換を行った。
 - 学校説明会 新見第一 6/6 神郷 6/12 北房 6/16 新見南 6/20 哲多 6/24
 - 授業アンケート（6月15日～7月3日）を実施し、集計結果データを提示した。
- 【文化課】**
- 12月までの来館者数合計は、1年 1713人、2年 3966人、3年 4487人であった。本を借りなくても図書館で本を読む生徒も多い。
 - 第3回ブックカフェは、読書キャンペーン中に本を借りた生徒をザ・サンコンズライブ（教員有志）に招待するという形に変更した。参加者は約90人で、この期間に本を借りた生徒も多かった。
- 【授業研究部会】**
- 6月、11月に授業見学は計画通り実施できた。
 - 県から指導主事を招いての教科研修会を国語(10/6)、数学(10/30)、英語(11/19)で実施でき、成果があった。
 - 着実にプロジェクターの活用が進んでいる。投影機の3年HR配置もしていただいた。

（続き）【具体的な取組の方法】

- 各教員が校外の研修に参加後、科内で研修内容の報告会を開く。 B【家庭科】
- 授業見学の継続と教科研修会(外部講師)の実施および教務課と連携しICT活用指導力の向上を図る。(実態把握・活用の研究・促進) A【授業研究部会】

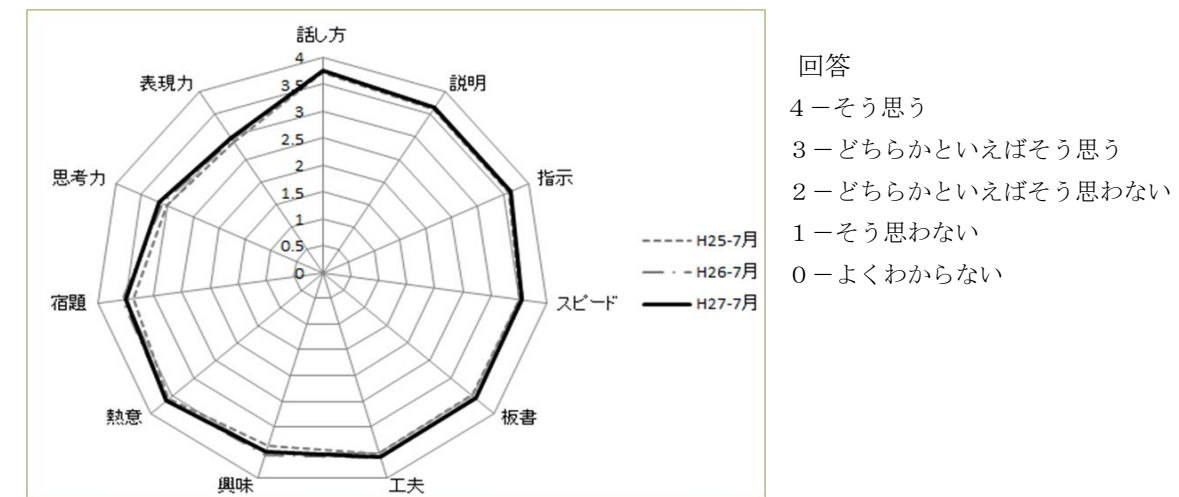
【結果等】

【進路課】 11月進研模試国数英全国偏差値50以上の割合（%）過年度比較（H25～H27）

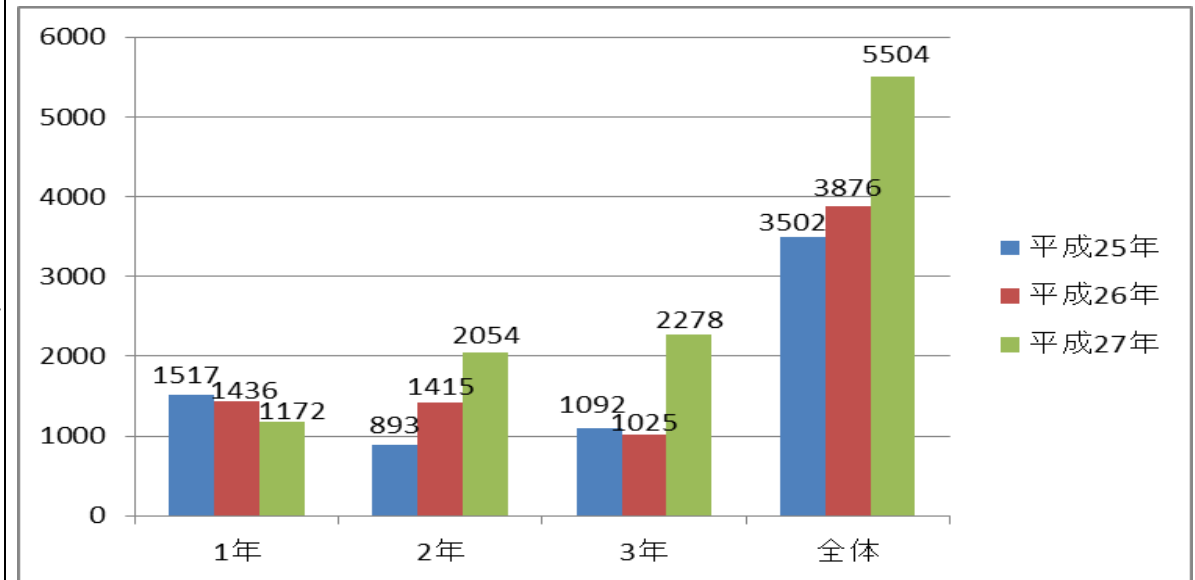


【総務企画課】 授業アンケート結果

授業の進め方についての生徒の教員に対する満足度 過年度比較（H25～H27）



【文化課】 学年別1月末貸出総数 過年度比較（H25～H27）



○指導力・授業力を向上させる取り組みの意識が高まり、次第に充実してきている。言語活動の充実やICTの活用についても各教科でさらに充実を目指す。

・授業見学は自教科、他教科とも定着してきた。教員の意識も高まってきている。さらに継続する。

・言語活動やアクティブラーニングを意識した授業への取り組みも各教科工夫が見られるようになってきている。さらに進める。

・校外での授業研修の報告書は回覧で終わり、教科内での共有、研究協議まではできていない。教科会議の定着化を進める

・進路研修会での活発な意見交換はまだ不十分である。進路研修会や検討会での進路指導の継続性を意識した取り組みを進める

・小中学校との授業連携は始まったばかりである。さらに充実させ、双方に意義あるものとする。

○校外模試偏差値50以上の割合

- ・1年50%(60以上15人)
- ・2年50%(60以上20人)
- ・3年50%(60以上15人)

○国公立大学合格者数 50名

※難関大10名以上チャレンジ

② 学習習慣の確立（自主的な学習を目指して）

課題と目標

【具体的な取組の方向】

- ・年間を通して学習実態調査を行い、生徒が自己目標をたて、日々の学習を振り返りながら学習習慣を確立させる。家庭学習の時間が普通科は3時間、家政科は2時間を超える生徒の割合が7割を超える。B【進路】
- ・各教科の学習習慣育成の内容を把握し、教科バランスのとれた学習習慣にする。 B【進路】
- ・「進路のてびき」を改訂して発行。 B【進路】
- ・授業の小テストに向けての取り組みの他、授業ごとの予習・復習となる学習や週末課題を課す。 B【国語科】
- ・復習の習慣を定着させるため、週末課題の出し方を工夫する。小テストを定期的実施する。 A【地公科】
- ・基礎学力の定着と学習習慣の確立を目指し、毎日課題、週末課題の内容を吟味し出題する。上位層の生徒が自主的に行う課題を工夫し取り組ませる。 B【数学科】
- ・定期（当日・週末）的な課題の実施と提出期限の厳守を促す。課題の提出状況一覧表を週1回提示し、状況の良くない生徒には随時面談を行い指導する。 B【理科】
- ・家庭で予習・復習すべきことを具体的に示し、学習習慣の定着を図る。 B【英語科】
- ・各種検定への取り組みについて、生徒が主体的に計画を立て取り組める工夫をする。 A【家政科】
- ・手帳を利用し、毎日の振り返りを行い、自己管理能力の育成を図る。 B【1年次】
- ・規則正しい生活を意識させ、自分で学習予定をたてられるようにする。 B【2年次】

【プロセス】

- 【進路課】**
- ・学習実態調査を4月・6月・9月・11月・1月に実施した。（3年次は4月・6月）
1年次目標達成率 普通科90% 家政科68%
2年次目標達成率 普通科89% 家政科19%
 - ・12月末には、1・2年次でミニ検討会を行った。課内で反省会を行い、国数英に関しては教科会議を持ってもらった。
 - ・「進路のてびき」は初版から5年たっているの、次年度は内容を見直したい。
- 【国語科】**
- ・小テストの合格率、課題の提出率は目標を達成できた。今後は期限内に提出できた者の割合が増えるように取り組んでいきたい。
- 【地歴公民科】**
- ・課題と小テストの実施はよくおこなわれ、課題未提出者や小テスト不振者に対するフォローもできた。
- 【数学科】**
- ・課題の難易度を変化させるなど学習習慣の定着への工夫を試みたが、中間層から下位層において模試、実力テストの結果がまだ現れてこない。
- 【理科】**
- ・提出率は、物理77%、化学91%、生物96%である。課題提出の習慣が付き、基礎的な内容の定着につながった。
- 【英語】**
- ・家政科の課題提出率は9割を超えたが、普通科では8割から9割の間であった。
- 【家政科】**
- ・「主体的に計画が立てられ実践できた」生徒アンケート
〔出来た〕 1年 28% 2年 28% 3年 36%
〔だいたい出来た〕 1年 62% 2年 53% 3年 50%
- 【1年次】**
- ・家庭学習時間は、普通科で平均3時間以上の生徒は80%であったが、家政科で2時間以上は80%に届かなかった。手帳利用による自己管理能力の育成はまだ道半ばである。
- 【2年次】**
- ・普通科は平均学習時間3時間以上が80%であり4時間以上の者も40%であり、学習時間はある程度確保されている。一方、家政科は2時間を大きく下回り、進路意識がなかなか高まらず、学習習慣の確立に大きな課題が残った。
- 【3年次】**
- ・生徒同士が教えあう姿や進路学習室などで学習に取り組む生徒は増加した。
 - ・自主的に学習して課題解決を図るために教員の指導を受けようとする生徒は一部に限られた。

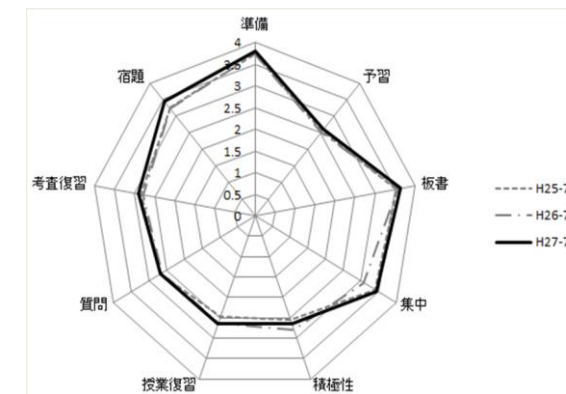
（続き）【具体的な取組の方法】

- ・生徒が自らの課題を見つけ、教員の支援を受けたり、生徒同士が教えあい学ぼうする雰囲気を作る。 B【3年次】

【結果等】

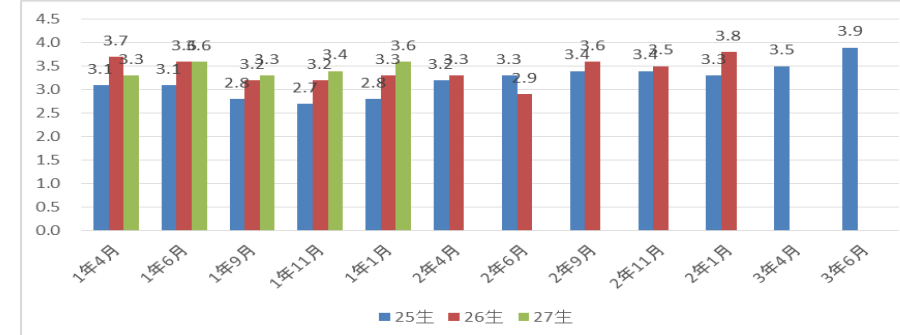
【進路課】 生徒自身の授業に対する自己評価

授業の進め方についての生徒の教員に対する満足度 過年度比較（H24～H26）

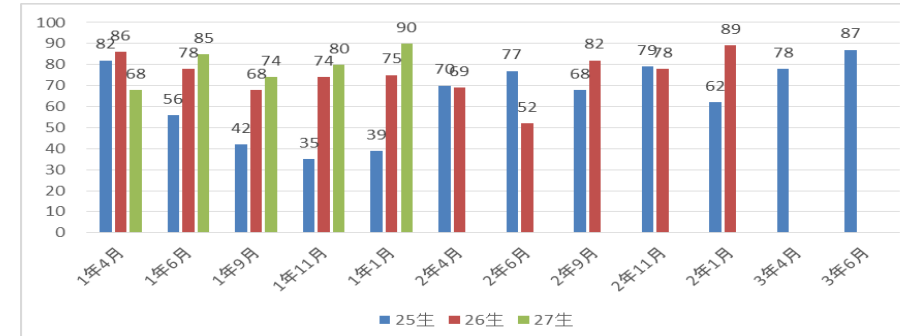


- 回答
- 4—そう思う
 - 3—どちらかといえばそう思う
 - 2—どちらかといえばそう思わない
 - 1—そう思わない
 - 0—よくわからない

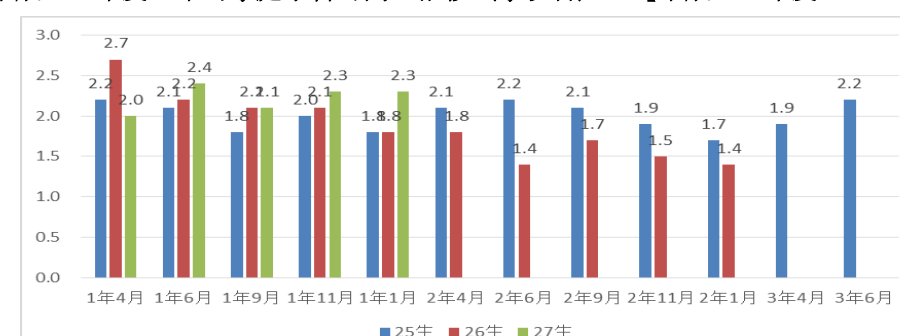
平成27年度 平均家庭学習時間の推移（普通科） 【平成25年度～27年度】



平成27年度 平均家庭学習時間3時間以上の割合%（普通科）【平成25年度～27年度】



平成27年度 平均家庭学習時間の推移（家政科） 【平成25年度～27年度】



- 家庭学習時間は今年度特に、着実に増加してきており、取り組みの成果が見られるが、予習・復習が十分できたとの実感はない。自主的な学習を目指す取り組みを進める。
- ・家庭学習時間が目標を下回る生徒には、面談や声かけを通して学習状況を把握するとともに、学習のモデルプランを示したり、具体的な進路目標を持たせたりするなど学習意欲を喚起する。
- ・生徒がより自主的に取り組めるよう、課題をレベル別に出したり小テストの内容を工夫したりする。
- ・メール配信や年次通信等を工夫し、家庭の理解や協力を得られるよう保護者との連携を図る。
- 平均家庭学習時間
 - ・家政科 2.0時間以上
 - ・普通科
 - 1年 3.5時間以上
 - 2年 3.5時間以上
 - 3年 4.0時間以上
- 平均家庭学習時間3時間以上の割合
 - 普通科 70%以上
- 授業アンケート「予習復習をしている。」普通科 3.0以上

③ 生徒が自主性を発揮できる場面の工夫と内容の充実

課題と目標

【具体的な取組の方向】
 ・松籟祭について、全校生徒が主体的に取り組めるように、生徒会執行部が企画し、松籟祭実行委員会を通じて体育・文化委員会を中心とした各委員会で検討し、各委員会からの意見を吸い上げることにより、内容の充実を図る。 A【生徒課】
 ・生徒が主体的に地域と交流できる環境を整える。 A【総務企画課】
 ・美化に対する意識の高揚と自主的な活動をさらに進めるために、日常の清掃活動の点検を定期的集約し、清掃監督者に通知する。また、引き続き古紙回収、学校周辺の清掃活動は年間計画を立て、自主的に運営させる。 A【厚生環境課】
 ・緊急地震速報を活用した避難訓練および抜き打ちの避難訓練を行い、危機回避の能力を身につけさせる。 A【厚生環境課】
 ・歯科治療率を50%以上にする。 A【厚生環境課】
 ・家政科の縦の繋がりが深まるような家政科の行事を、生徒主体で工夫させて考えさせ、実践する。 A【家政科】
 ・各寮内において、寮長、副寮長を中心とした「自主」「自立」の運営を活発にできるように毎週木曜日に各寮において反省会を行う。 B【寄宿舎】
 ・寮長、副寮長と舎監長との情報交換を月1回行えるような体制を確立する。 B【寄宿舎】

【プロセス】
【生徒課】
 ・松籟祭実行委員会を3回開催した。
 ・松籟祭の生徒アンケートでは、「良かった」と回答したのが93.5%であった。
 ・本校生徒会・家庭クラブで恒例のキャンドルナイトを10月16日（金）に紺屋川沿いで実施した。
【総務企画課】
 ・「栄町商店街活性化プロジェクト」の中心となる「地紅茶祭り生徒実行委員会」が6/23, 7/13, 9/10, 10/28に行われた。昨年度までは実行委員会に生徒会執行部のみの参加であったが、今年度から家庭クラブ役員も参加し活動の幅を広げている。生徒が、企画・立案から携わっており、市内の高校生、商店街、地紅茶祭り実行委員会と一緒に11/1のイベントを成功させるために4回の委員会を経て開催された。イベントには総勢127名（教員12名、生徒115名）が参加した。
 ・総合学習「高梁を知る」については、文化祭でのパネル展示に加え、優秀な取り組みについてはプレゼン発表会を学年で設け、学年全体で共有できていた。
【厚生環境課】
 ・避難訓練は2回でき、実際の場面でも教職員の迅速な行動で避難誘導もできた。
 ・生徒の資源ゴミ意識の定着は見られる。
 ・学校周辺の清掃が、学年のボランティアと活動が重なることから計画しにくい状況にある。美化委員会独自の活動を考えていきたい。
 ・後期は個別の指導を定期的実施し、現在の歯科治療率は59.2%である。
【家政科】
 ・生徒主体で、今年初めて家政科全学年の合同ランチ会ができた。
 ・「家政科の行事を通じて家政科の縦の繋がりが深まった」
 生徒アンケート 1年 92% 2年 89% 3年 94%
【寄宿舎】
 ・毎週木曜日の反省会は年間を通じて実施できた。
 ・寮長、副寮長との情報交換会は10月に一度実施した。2月に二回目を実施する予定である。

（続き）【部活動等成績】
野球部
 ・第97回全国高等学校野球選手権 岡山大会 ベスト16
家政科
 ・岡山県酪農乳業協会 牛乳・乳製品利用料理コンクール岡山県大会 優良賞
 ・第62回岡山県高等学校家庭クラブ研究発表大会 備中支部大会 最優秀賞
 ・第62回岡山県高等学校家庭クラブ研究発表大会 県大会 最優秀賞
 ・高校生デザイン画コンテスト2015 佳作
 ・岡山県食肉惣菜創作発表会 優秀賞
普通科
 ・第61回青少年読書感想文岡山県コンクール 高等学校の部 優秀賞（自由読書）

【結果等】
【生徒課】 松籟祭結団式 **紺屋川のキャンドルナイト**



文化祭・体育祭の入場者数

| | 文化祭入場者数 | 体育祭入場者数 |
|-------|---------|---------|
| 平成25年 | 439 | 146 |
| 平成26年 | 574 | 172 |
| 平成27年 | 443 | 208 |

【部活動等成績】
ソフトボール部
 ・第70回国民体育大会ソフトボール競技 岡山県選抜チーム 中国ブロック大会準優勝
 國中昂大3年 前田拓樹3年 隠地隆太郎3年 池田朋生1年
 ・平成27年度 岡山県高等学校春季ソフトボール選手権大会 第3位
 ・平成27年度 岡山県総合体育大会ソフトボール競技 第3位
 ・平成27年度 岡山県高等学校夏季ソフトボール選手権大会 第3位

コーラス部
 ・第54回中国合唱コンクール 高等学校部門 Aグループ 金賞
 ・第82回NHK全国学校音楽コンクール 岡山大会 銀賞
 ・第68回岡山県合唱コンクール 高等学校部門 Aグループ 金賞

ソフトテニス部
 ・平成27年度岡山県春季高等学校ソフトテニス選手権大会(ダブルス)ベスト32
 ・全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会(個人)岡山県予選 ベスト32
 ・平成27年度備中支部総体備北地区学校対抗ソフトテニス大会(団体) 男子2位 女子2位
 ・高梁川流域ソフトテニス大会 個人第3位 団体第3位
 ・平成27年度岡山県高等学校新人ソフトテニス大会備北地区予選会 個人第3位

バレーボール部
 ・第69回岡山県高等学校春季バレーボール選手権大会 男子 ベスト16
 ・第54回岡山県高等学校総合体育大会バレーボール競技 女子 ベスト16
 ・平成27年度岡山県高等学校バレーボール選手権大会 女子 ベスト16
 ・平成27年度岡山県高等学校男女バレーボール新人大会 男子ベスト16

○学校行事や委員会活動における生徒の自主的な活動は定着してきた。さらに充実させるとともに、学校内外、特に校外での生徒の自主性を育む場面を工夫する。
 ・生徒会執行部と各種委員会の連携の推進
 ・美化委員会による古紙回収や清掃活動の取り組みの充実
 ・家庭クラブ活動のさらなる充実
 ・総務企画課を中心とした地域連携の取り組みの充実
 ・部活動による地域連携への参加の推進
 ・生徒の自主性を育む社会貢献活動・ボランティア活動の研究
 ・縦割りLHRの定着
 ○学校生活や地域連携等のいろいろな場面で、生徒が主体的に考え行動できるように、場面の設定や支援を行う。

④ 情報を共有し課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り。

課題と目標

【具体的な取組の方向】

- ・職員室の整備(ホワイトボードの活用,ロッカーの整理など)をすすめる。 B【教務】
- ・学校管理システムによる成績処理・学籍入力マニュアルをよりわかりやすくなるよう情報推進室と連携し改善する。 B【教務】
- ・課会議の形態を各係から事前に議題提案して行うものとする。 B【教務】
- ・毎週、課会を開き共通理解を図る。 B【生徒】
- ・各種様式の整理を行う。 B【生徒】
- ・各年次、進路通信を発行し、進路情報の共有化を図り、進路指導の方向性を共通理解する。 B【進路】
- ・「進路のてびき」の資料を充実させる。 B【進路】
- ・1か月サイクルで細かい行事計画をたてて紙面配付し、仕事の進捗状況を相互に把握して協力して業務にあたる。 B【総務】
- ・面接カードの利用、課題提出状況をサーバー上で管理することにより、クラス担任と教科担当者の生徒情報の共有に努め、協働体制作りに取り組む。 A【1年次】
- ・生徒の日常の様子を把握し、年次団で情報を共有する。 B【2年次】
- ・進路課と連携し、外部から得た情報を年次団教員が共有できる体制を確立し、生徒の進路実現に組織的に取り組む。 B【3年次】
- ・年間を通して定期的に教科会議を行い、生徒の自主的な学習習慣の確立・指導方法の研究など情報交換・協働体制を図る。 B【理科】
- ・「家政科通信」の計画的な発行を行う。 B【家政科】

【プロセス】

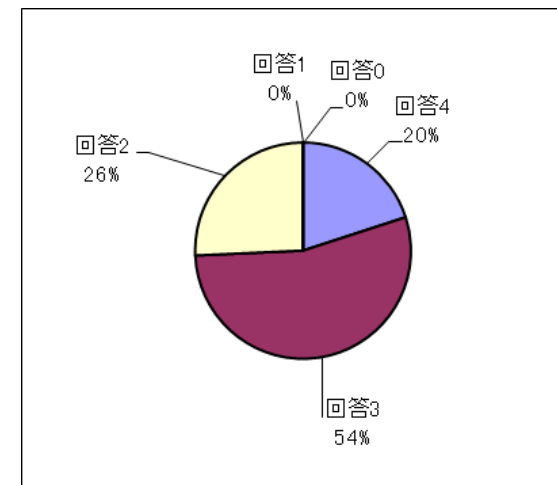
- 【教務課】
 - ・ホワイトボード活用変更案はあるので来年度当初には間に合うよう整備したい。
 - ・情報推進室と連絡をとりながらマニュアルの改訂ができた。操作手順がわかりやすく、かつ入力内容が調査書へ反映しやすくなるようなものとなった。
 - ・各係のいずれかからほぼ毎回提案があった。更に活発化できる余地はある。
- 【生徒課】
 - ・課会の開催率は100%であった。
 - ・様式の整理については完遂しなかった。次年度に持ち越したい。
- 【進路課】
 - ・各年次通信は、1年次普通科14号、家政科4号。2年次普通科3号、家政科2号。進路課通信は普通科11号、家政科7号を発行している。
 - ・「進路の手引き」の認知が不十分で、十分には活用はできていない。次年度は、活用法を周知したい。
- 【総務企画課】
 - ・11月まではほぼ予定通り実施できたが、12月以降は大きな企画がなかったため実施していない。
- 【1年次】
 - ・課題提出状況のサーバー上での管理は、指導に生かされていた。12月末にミニ検討会を実施し、次年度に向けての協働体制作りが進められた。
- 【2年次】
 - ・全員の提出までは至っていないが、定期的に提出させ、生徒たちの家庭での生活状況を把握する上で十分活用できた。
- 【3年次】
 - ・生徒の進路実現に向けた年次内での情報共有は、朝礼や日常の会話の中で図ることができたが、一層の深化の工夫も必要。
- 【理科】
 - ・科会を6回実施('16 2/2 現在)。教科内で授業での注意点、受験指導等について意見交換を行うことができた。
- 【家政科】
 - ・「家政科通信」は計画通りに現在4号発行している。
- 【事務室】
 - ・職員朝礼では、工事に関する連絡や情報提供をもれなく行うよう努めた。
 - ・共有の行事予定表に提出物等の提出期限などを入力し、情報共有を行った。
- 【全体】
 - ・課長連絡会を17回、年次主任会を2回実施し、学校運営について連絡調整及び課題の共有を行った。

(続き) 【具体的な取組の方向】

- ・事務室内朝礼の充実を図るとともに職員朝礼で連絡・情報提供を行う。
- ・行事予定表の内容を充実させることにより、情報共有を図る。 B【事務室】

【結果等】

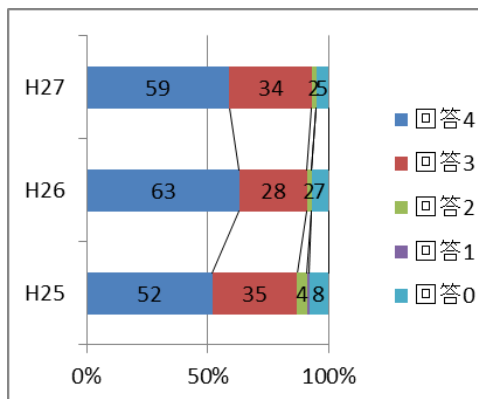
【総務企画課】(平成27年度 アンケート調査)
「校内の情報は共有できていると思う」



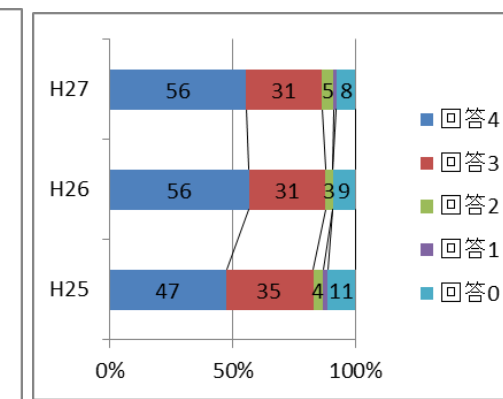
回答
4-そう思う
3-どちらかといえばそう思う
2-どちらかといえばそう思わない
1-そう思わない
0-よくわからない

「高梁高校に行かせてよかったと思う」「高梁高校に来てよかったと思う」

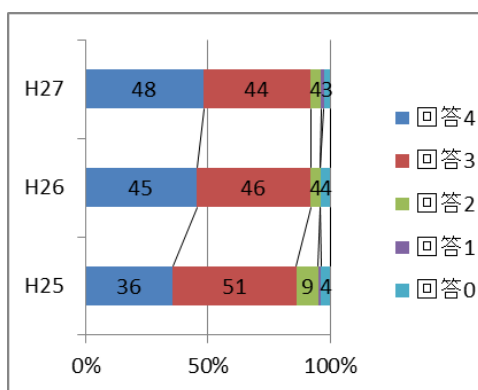
保護者による評価



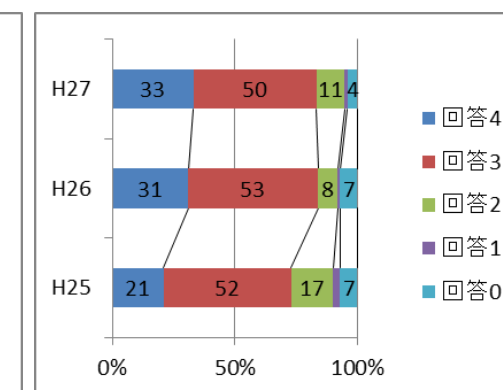
生徒による評価



「学校では、生徒会・委員会が中心となって活発に活動している」(生徒評価)



「学校は、生徒の思いや意見をくみ取って教育活動を行ってくれる」(生徒評価)



- 各分掌内、各年次内での情報の共有は定着してきた。分掌間、年次間の情報の共有も進んできたが、まだ不十分である。さらに分掌と年次の情報の共有による連携の充実も進める。
- 各分掌、各年次の組織的な動きは進んできた。日頃の仕事だけでなく、課題の発見や解決のための取り組みに組織的に取り組めるようさらに工夫する。
 - ・課長連絡会 週1回
 - ・年次主任連絡会 月1回
 - ・課会議、年次会議の充実
 - ・教科会議の充実
- 自己評価アンケート(情報の共有)「どちらかと言えばそう思う」以上 80%以上
- 学校満足度「どちらかと言えばそう思う」以上 90%以上